

橋梁点検に関する実地デモンストレーションの実施報告

- 1 目 的 SIP-WG1における地方自治体の技術職員への啓蒙活動の一環として、また開発中の技術を地方自治体の技術職員が使用可能なレベルへ適合させるため、「UAV（ドローン）を用いた橋梁点検」と「ハンマを用いた打音法による橋梁床版の損傷検知」を現地でデモンストレーションした。
- 2 対 象 者 富山県の土木部技術職員、ならびに富山県内市町村職員のうち、橋梁の維持管理に携わる職員 21名
- 3 日 時 平成27年11月12日(木) 13:10～16:50
- 4 場 所 集 合 及 び 解 散：富山県庁前
 U A V 点 検：早月大橋（県道富山滑川魚津線）
 打音法床版損傷検知：富山北大橋（県道小竹諏訪川原線）

5 内 容

時間	内容	担当
13:10 ～ 14:00	バスによる移動中に、 概要説明 	金沢工業大学 教授 宮里 心一 教授 木村 定雄
14:00 ～ 15:00	1次スクリーニング のためのUAVを用いた 橋梁点検のデモンスト レーション(早月大橋)   	金沢工業大学 教授 徳永 光晴
15:40 ～ 16:40	ハンマを用いた打音法 による橋梁床版の損傷検知 のデモンストレーション (富山北大橋) 	金沢工業大学 教授 木村 定雄 佐藤工業(株) 北川 真也

6 成 果 地方自治体の技術職員へ橋梁点検に関する新技術を紹介することで、地方道路橋における合理的な調査・点検は現在開発中であり、技術職員自らが参画しながらメンテナンスマネジメントの仕組みを構築しなければならないことを認識する機会になった。特に今回は、技術開発に携わる研究者が現地に出向き、地方自治体が管理している実橋を用いてデモンストレーションしたことにより、多くの地方自治体の技術職員が、自分達の問題として道路橋のメンテナンスを自発的・自律的に考える自覚が芽生えるきっかけとなった。また、開発者・研究者にとっては、地方自治体の技術職員が主体的に取り扱うに当たってのヒアリング調査を実施でき、今後の開発方針へ反映する。